

抑止力の虚構性指摘

NDシンポ 基地押し付け批判



意見交換する(右から)半田滋、柳沢協二、屋良朝博、猿田佐世の各氏＝25日、那覇市のかりゆしアーバンリゾート・ナハ

日米外交について政策提言するシンクタンク、新外交イニシアティブ(ND、東京)は25日、那覇市で米軍基地問題に関するシンポジウムを開いた。柳沢協二元官房副長官補らが、実態

が伴わない「抑止力」を口実に沖縄に基地を押し付けている現状を批判した。

柳沢氏は政府が米軍オスプレイの佐賀空港への暫定移駐案を打ち出したことに「(配備は)沖縄でなければ

ならないとしていた政府が『5年ほどいなくてもいいよ』と言いつ出した。大きな論理破綻だ」と述べ、在沖米海兵隊などの抑止力の虚構性を指摘した。

東京新聞の半田滋論説兼編集委員は「米国の安保政策を実現するため日本政府が地方に強要してきた。典型例が沖縄の基地問題だ」と対米追従姿勢を批判。フリーライターの家良朝博氏は海兵隊の海外での幅広い活動に触れ「沖縄でない抑止力が維持できないのは全くうそだ。虚構の抑止力で集団的自衛権、辺野古移設が語られ、思考停止にさられている」と解説した。ND事務局長の猿田佐世氏は辺野古移設の反対運動で「米国の予算から移設費を削るなど具体的な法律論議も必要だ」と提言した。